

## 2010年4月29日 第81回福島県中央メーデー





2010.4.30 福島民友



▲ 2010.4.30 福島民報



## 県中央メーデー 「雇用や待遇改善を」

### 福島で3888人デモ行進

第81回県中央メーデー（同実行委員会主催）が29日、福島市の「荒川運動公園」で開かれた。景気低迷やデフレが深刻化する中、参加者は「社会の底割れに歯止めをかける」「雇用の確保や待遇の改善を訴えた。主催者発表によるとこの日、61団体から昨年より436人多い計3888人が参加。影山道幸実行委員長は「現在の社会は底割れ状況に追い込まれている」として「これ以上、賃金低下が進めばデフレがデフレを呼び、悪循環に陥る。国民の目線に立ち、社会の底割れに歯止めをかけた」と述べた。メーデー宣言を採択した後、参加者たちは「格差社会を是正しよう」「雇用確保と生活安全を実現しよう」と呼び、JR福島駅までデモ行進した。福島市宮下町から来た50代の男性会社員は「賃金カットが続く中、これから学校に通う子ども3人の養育費や両親の介護費などを考えると将来が不安。状況を改善したい」と話していた。【金寿英】



「がんばろう」を三唱して氣勢を上げる参加者たち

▲ 2010.4.30 毎日新聞

## 景気回復、遠い実感

### 県中央メーデーに3900人

## 参院選控え政治色

雇用不安が解消されない中、メーデーの集会在29日、県内各地で開かれた。連合福島が主催する第81回県中央メーデーは福島市の荒川運動公園であり、約3900人（主催者発表）が参加。首長や国会議員が雇用対策の実績を訴え、参院選など選挙での協力を呼び掛けたが、参加者からは「景気の実感にギャップがある」「まるで選挙演説と冷やかな声も聞かれた。（村上晃一、田村隆）

「この2年は経済雇用対策を中心に様々な政策を行ってきた。一人でも多く人も雇用できるような産業構造にした。あいさつに立った佐藤雄平知事は県の雇用政策をアピールした。続く瀬戸孝則・福島市長も就職先が内定していない新卒高卒者の支援など市の雇用対策を強調した。参院選福島選挙区（改選数2）に立候補予定の増子輝彦氏も登壇し「昨年（の衆院選）が追い風50代なら、今は逆風50代。支援をお願い申し上げます」と述べた。この後、「雇用を確保・創出する政策制度を実現し、働く者の生活をどう」などとするメーデー宣言が採択され、参加者は「賃金カットやめろ」などと書かれた手作りのフラカードを持ってJR福島駅東口までデモ行進した。参加した運輸業の男性（51）は「景気は底を打ったと聞くが、まだまだ。彼らと我々との間には感覚にギャップがある。原油高で燃料費が上がった分、給料は下げられたまま」という。通信機器製造会社に勤める男性（41）は、残業時間は長い手当はカットされ続けていると待遇への不満をもらした。後、「選挙の演説を聞いているみたいだ」と話した。郵便事業会社に勤める男性（36）は、鳩山政権が郵政民営化の見通しを進めていることについて「（昔懐）戻してほしい」という思いはあります。が、選挙のたびに引っかけられ続けるのかと思うと不安です」と語った。

◇ 原町地区連台などの実行委

雇用不安が解消されない中、メーデーの集会在29日、県内各地で開かれた。連合福島が主催する第81回県中央メーデーは福島市の荒川運動公園であり、約3900人（主催者発表）が参加。首長や国会議員が雇用対策の実績を訴え、参院選など選挙での協力を呼び掛けたが、参加者からは「景気の実感にギャップがある」「まるで選挙演説と冷やかな声も聞かれた。（村上晃一、田村隆）

「雇用確保で豊かな生活」などのフラカードを掲げ、市中心部をデモ行進した。

▲ 2010.4.30 朝日新聞